

講義科目名称： 老年看護学実習

授業コード： 2230300400

英文科目名称： Clinical Practice in Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3学年	3単位	必修
担当教員			
◎東條紀子、大倉由貴、青山拓夢、金井香織、原等子、小長谷百絵			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 通年</p> <p>【授業時間】 90時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】 ◎東條 紀子 大倉 由貴 青山 拓夢 金井 香織 原 等子 小長谷 百絵 実務経験のある教員が担当します</p> <p>【研究室】 308 共同研究室4 共同研究室4 共同研究室4 303 213</p> <p>【メールアドレス】</p> <p>【本学の科目区分】 専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程</p> <p>【DP1】 <input type="radio"/> 【DP2】 <input checked="" type="radio"/> 【DP3】 <input type="radio"/> 【DP4】 <input type="radio"/> 【DP5】 <input type="radio"/> 【DP6】 <input type="radio"/> 【DP7】 <input type="radio"/></p>
------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病や障害を持ちながら、自己の可能性を探索しつつ生きる高齢者の理解を深める。 2. 個々のニーズに応じた安全で安楽な看護活動が実践できる基礎的能力を習得する。 3. 高齢者ケアサービスにおける医療施設や福祉施設の役割・機能を理解し、そこで期待される看護職の役割と機能を学ぶ。また、高齢者ケアサービスを担う関連多職種との協働ができる能力を修得する。
授業概要	<p>老年看護学実習では、臨地において高齢者と向き合い、ケアを探究することを通して老年看護の意義を学ぶ。高齢者への看護実践のために重要なことは、</p> <p>第一に高齢者個々の経年の生活史、習慣を考慮し、生活者の視点によって生活の実際を理解すること</p> <p>第二に確実なフィジカルアセスメントにもとづき高齢者の多様な身体状況、疾病や障害を深く理解すること</p> <p>その上で生活への影響を最小限に抑えた看護過程を熟考すること</p> <p>これらにより、個別性のある看護ケアを安全かつ安楽に実施し、高齢者の生活の質を向上させることができる。</p> <p>また、高齢者が療養する医療施設や保健福祉施設において実際に学ぶことにより、わが国の保健、福祉における高齢者施策の政策的意義への理解を深める。</p>
授業計画	<p>授業内容</p> <p>【授業形態】 実習 対面・臨地</p> <p>【実習期間】 3週間</p> <p>【実習場所】 上越市内および近郊の病院、在宅支援サービス施設など</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院で療養する後期高齢者を1名担当し、看護過程を展開する。 2) 高齢者在宅支援サービスに同行し、その場で行われるケアに参加して在宅生活支援及び地域サービスの意義について考える。 3) 多様なケア環境（病院、通所サービス施設、在宅等）における高齢者への看護の実際を学び、高齢者のケアニーズや各サービスの役割を考察する。 4) 実習を通して高齢者への看護の役割と多職種との連携のあり方を考察する。詳細は実習要項を参照すること。
事前・事後学習	<p>事前学習：実習前に基本的な看護技術の確認および必要な項目は技術練習をしておいてください。（バイタルサインの測定、移乗・移動援助、排泄ケア、清潔ケア、褥瘡リスクアセスメント、食事介助・ポジショニング、口腔ケアなど）</p> <p>事後学習：高齢者の看護に必要な視点として高齢者の尊厳、自立、参加、リハビリテーションなどの重要性について実習後に改めて考えてみましょう。そして、高齢者ケアにおける看護倫理について考察し、感性高く実践していく力をつけていきましょう。</p>
評価方法、評価基準	<p>実習目標の到達状況について、実習内容、実習記録（情報の整理、アセスメント、全体像、看護計画、日々の記録、実習レポート）などにより総合評価する。詳細は実習要項を参照すること。</p>
必携図書	<p>老年看護学Ⅰ、Ⅱ、演習で使用した図書ならびに配布資料、自己学習資料</p>
参考図書・資料等	<p>老年看護学演習提示資料ほか、参考図書、映像資料などを随時活用する。</p> <p>インターネット資料の利用は必要最小限にとどめ、幅広い知識および技術の習得をめざす。</p>

<p>受講、課題、資料配布等のルール</p>	<p>実習オリエンテーション前に、必ず実習要項を熟読してきてください。 学内・臨地問わず、欠席、遅刻、早退の場合は、必ず担当教員（必要時、実習施設担当者）に連絡し、確認を得てください。 実習記録は手書きでもPC入力でも構いません。コピーは自宅、大学、実習施設内で行い、USBや原本の置忘れや紛失に留意してください。 実習提出用記録（コメントされた記録類も含む）、個人学習資料、グループ学習資料は実習要項に沿って、実習最終日の提出資料に含めるので、資料の廃棄については留意してください。</p>
<p>教員からのメッセージ</p>	<p>「学び」は個人の産物です。積極的かつ主体的に参加し、あなたの看護を創造していきましょう。また、高齢者はケアを受ける一方的な存在ではありません。疾病や障害を持ちながらも生きる高齢者の「強み」「隠れた能力」「挑戦」にたくさん注目していきましょう。</p>
<p>オフィスアワー</p>	